

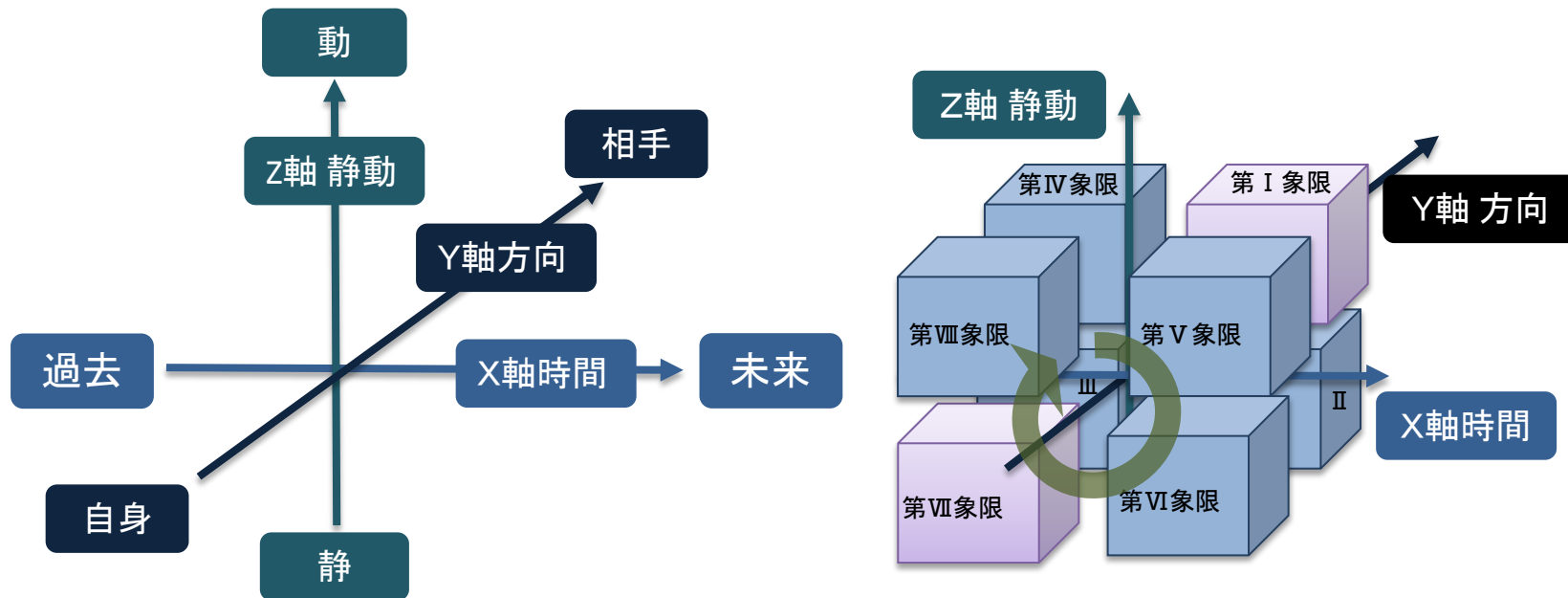
人文組織工学 A基礎理論

意識について



有効意識への変換

意識発生時に、「自身が」「相手にとって」の区分を常に注視してみる。気付かずに言動を行ったときも同様である。発展軸は相手、未来、動である。



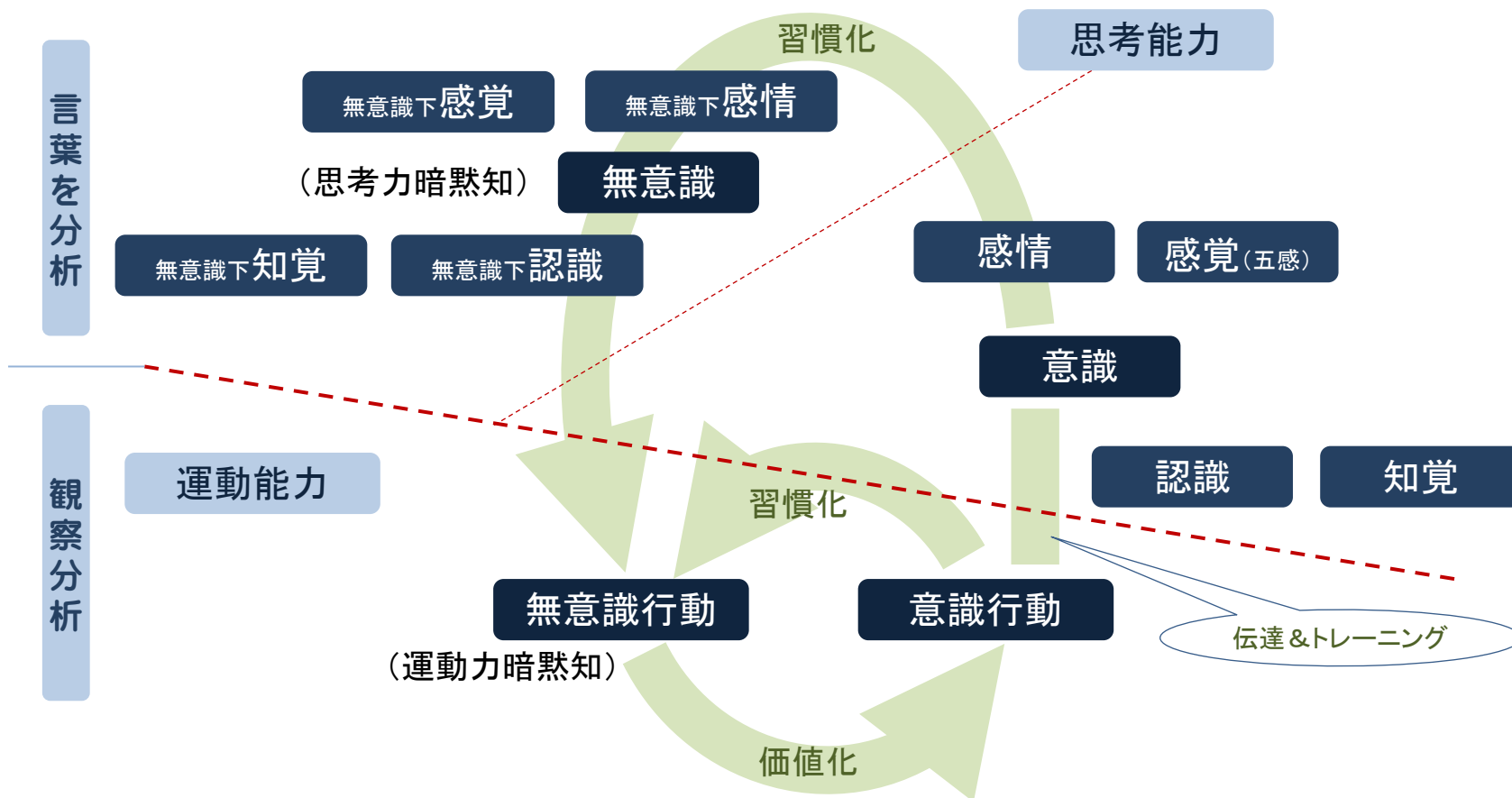
意識は行動を起こすとき、必ず発生している。幼子の意識の多くは第V象限にある。大人になるに従って、相手への思いが発生し、次第に第I象限へと移動する。

相手は場と置かれている立場によって異なる。個人であったり、顧客、上司、社会になる。相手が個から集団、社会へと移動していくと、立場が公的になっていく。

意識の定義

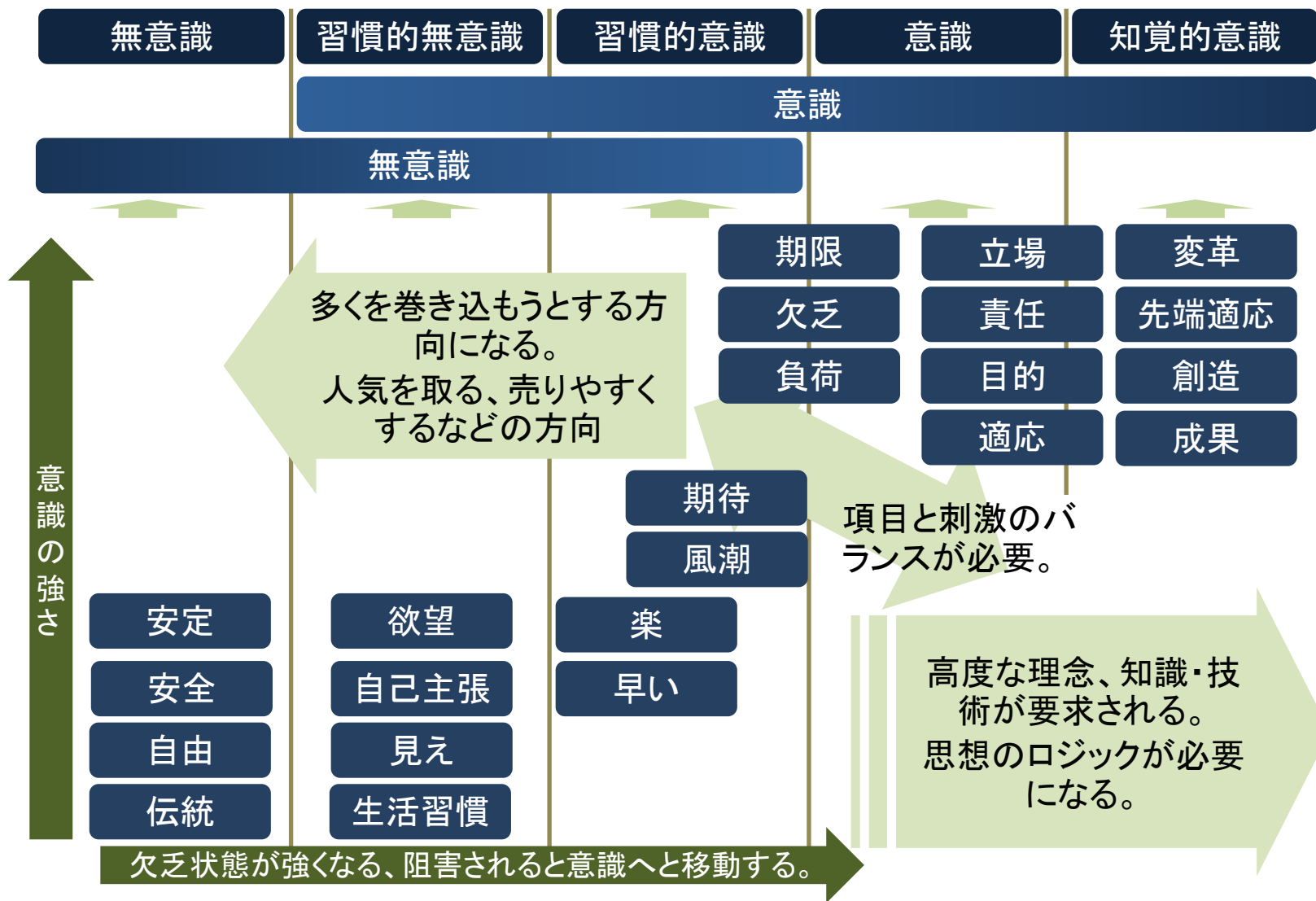
意識とは自らの立場、周辺環境などについて認識できる状態をいう。

意識は意識外があって成立する。意識と関連するものがある、意識が意識であると言える。意識が果たす役割、意識の対象、それらの相関と相反がある、意識を活用できる。



意識レベルの要因

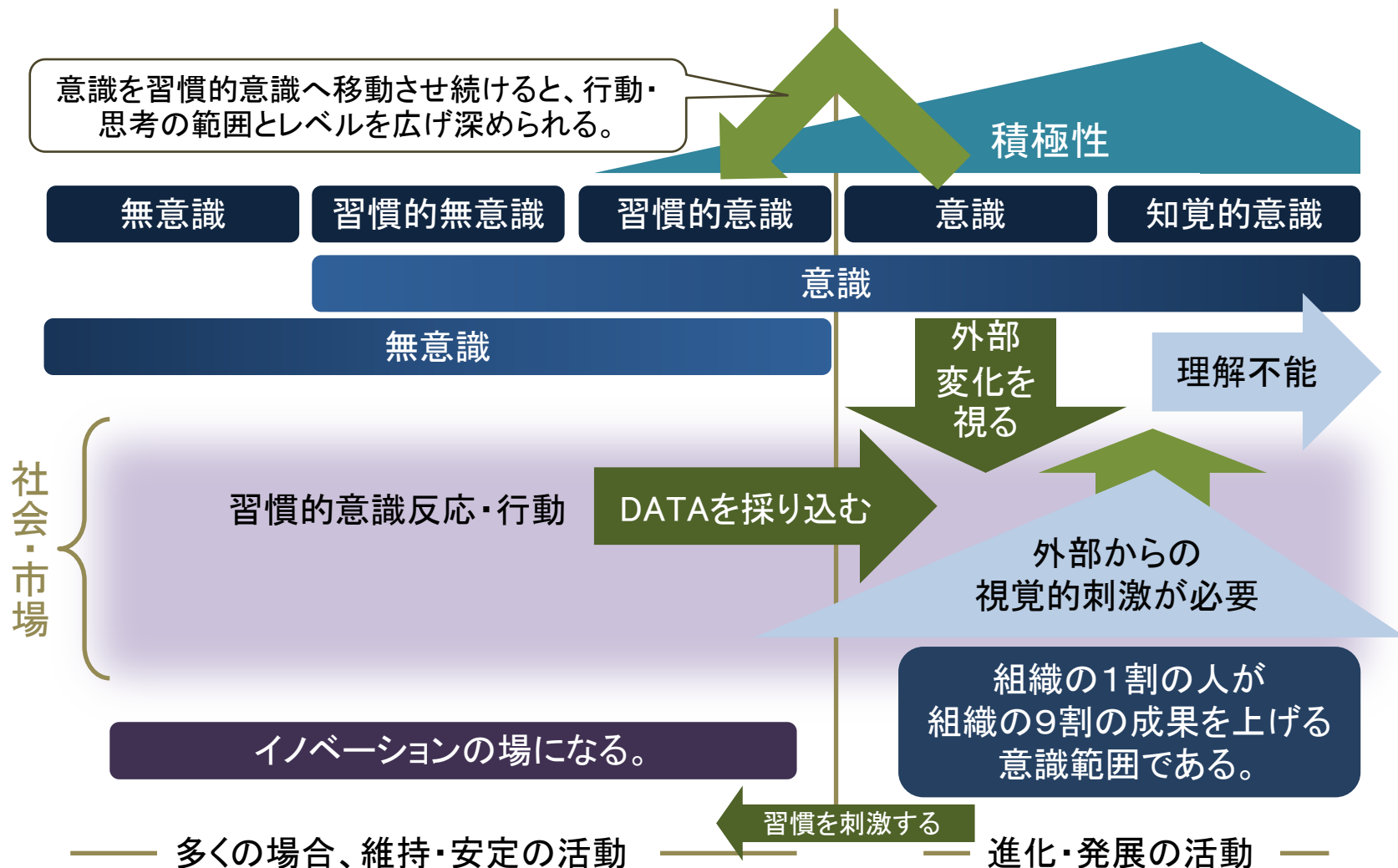
発展と進化には、無意識と知覚的意識の組み合わせが大切になる。



挙げられている単語群は、文字データ分析時の測定目安になる。

意識と無意識の距離

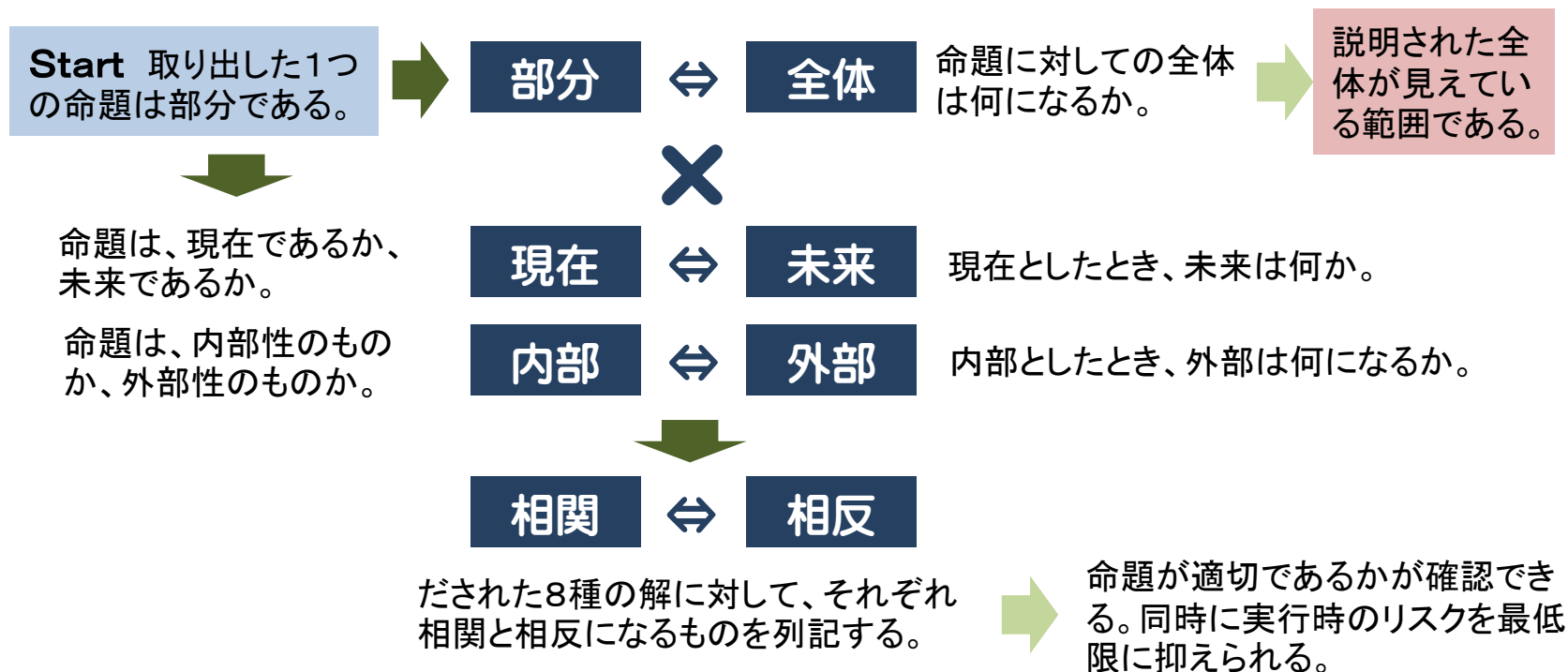
行動、表現に現れなければ、無意識も意識もない。意識が存在しない。
行動と表現が意識測定の入り口である。



意識の8つの場面と状態

より完璧な表現内容を作り出す前提意識である。

重要な命題を検討するとき、8つの場面、8つ状態を把握しなければならない。



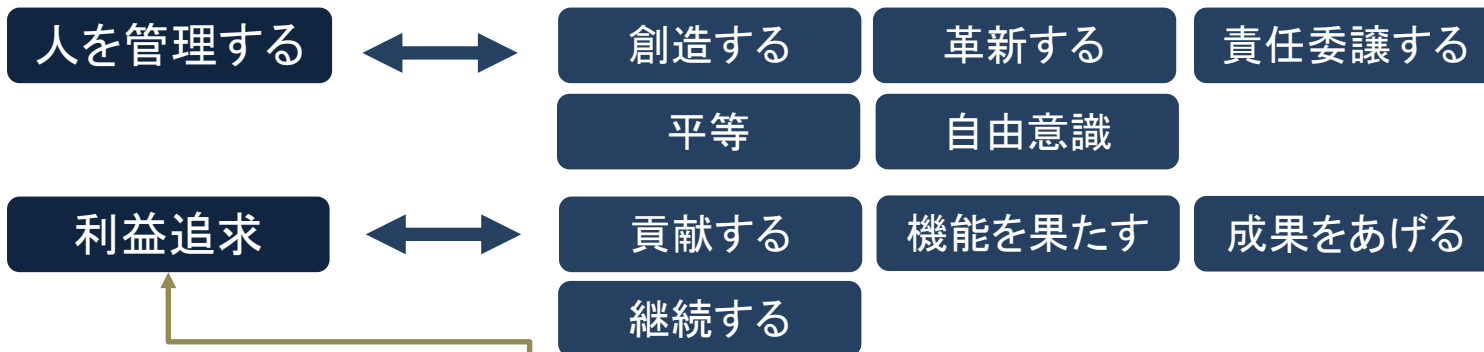
意識の分類、意識の状態、意識と視点の関わり、知識の活用などが、上記の8単語を基準にして測定することができる。

上記8単語を基準にして、検討されると、活動&意思決定リスクを最小にできる。

矛盾を排除する

矛盾を引き起こす2大単語

発展・進化する単語群



使う場所、使うときの
意味を明確にしておく。

矛盾する。

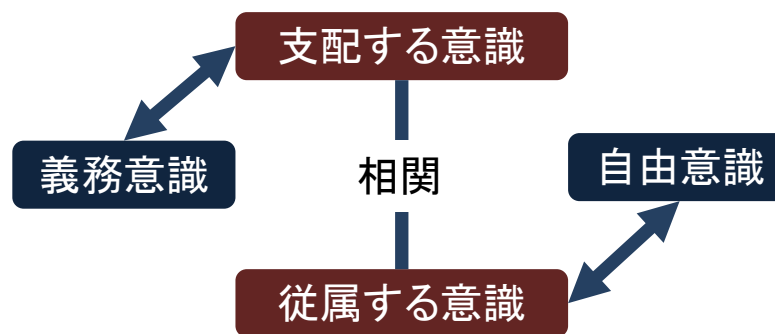
矛盾を防止する是非

前提の是非

適正化の是非

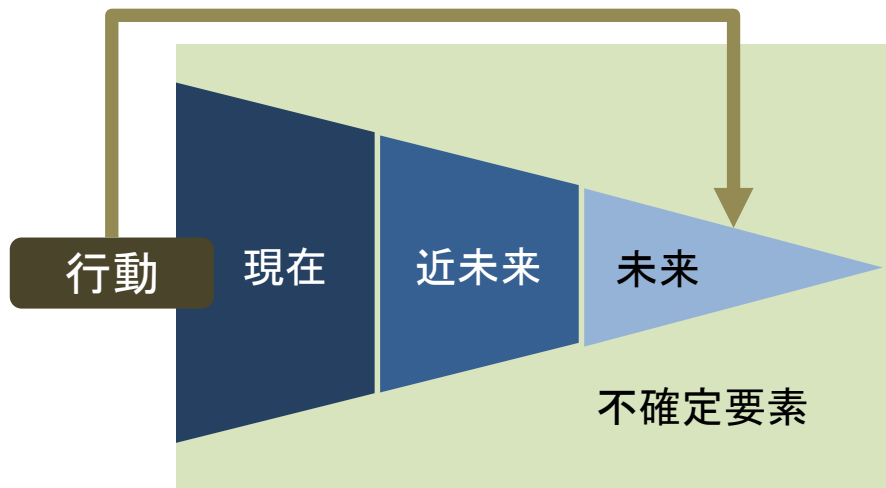
時間軸の是非

矛盾の関係



支配と従属意識は持つてはならない。
多くの矛盾が生まれてくる。発展を阻害する。

見えないところを意識する



《見えないところを意識する》

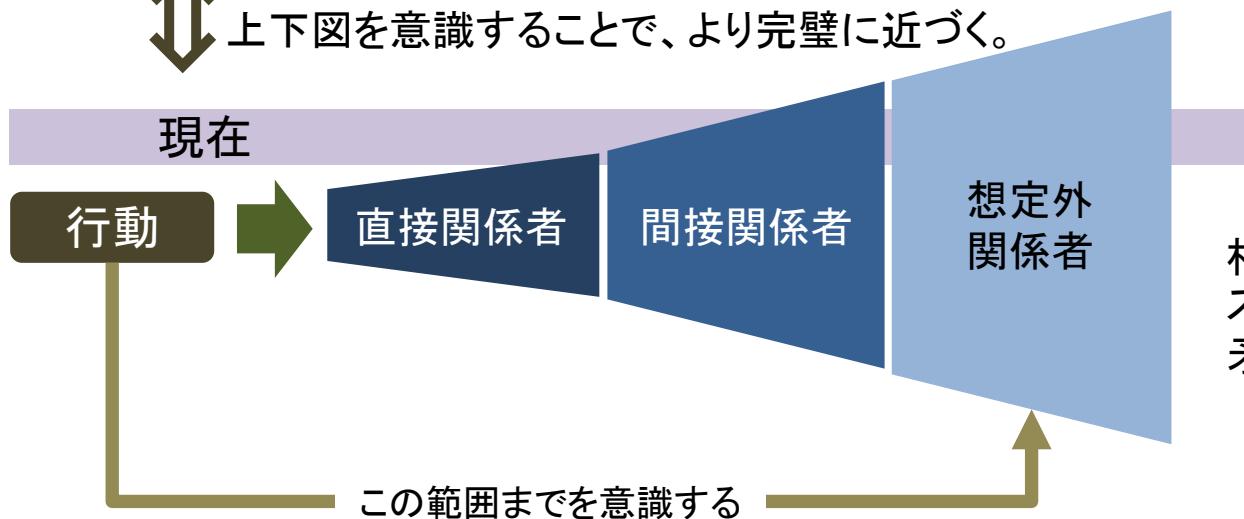
見えないところを意識することはできない。可能性も分からないかもしれない。だが、見ようとする意識がなければ、なお、見ることはできない。

《常に正と負を考える》

負を少なくする、または負を正に変える、負に対処することを考える。

負をすべて意識できない。しかし、想定反対は考えられる。

⇕ 上下図を意識することで、より完璧に近づく。



相関、相反のバランスを意識する。
矛盾を排除する。

マネジメントでの意識の前提を確認する

考える前提はどちらにあるか！

- ① 事実は1つである。／事実は見方によって複数ある。
- ② 人材はコストである。／人材は資産である、または資源である。
- ③ 知識は武器である。／知識は道具である。
- ④ 資源は固定されている。／資源は創られるものである。
- ⑤ 起こりそうな事柄に適応しようとする。／何かを起こそうとする。
- ⑥ 市場は元々ある。／市場は創るものである。
- ⑦ イノベーションは組織内に起こすものである。／イノベーションは社会に仕掛けるものである。
- ⑧ 商品を決めるのは組織である。／商品は市場によって決められる。
- ⑨ 仕事で大切なものは数字である。／仕事で大切なものは意味である。
- ⑩ 自分は組織を必要とする。／組織が自分を必要とする。